

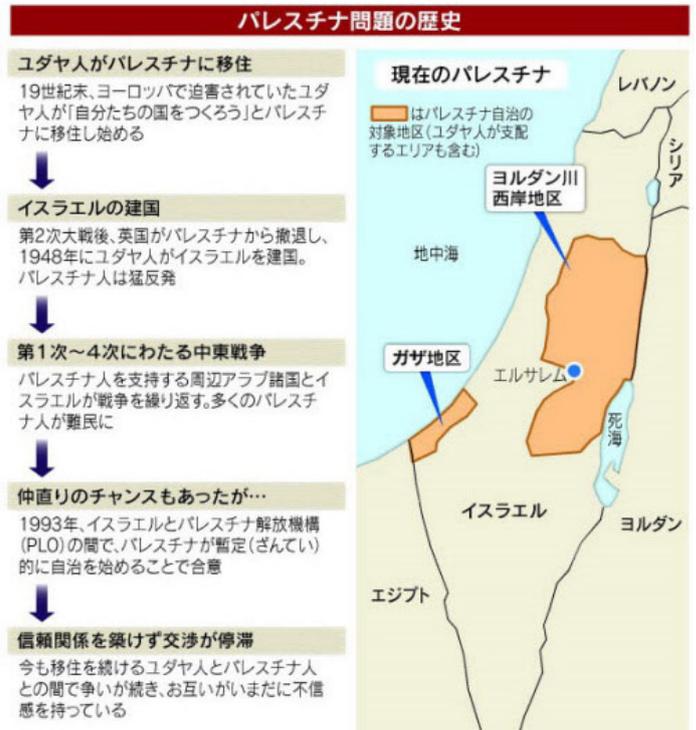
ユダヤ教

1. 発祥地パレスチナとその名の由来

ユダヤ教は中東のパレスチナ地方で発祥した宗教であり、この地方に住むイスラエル人（ヘブライ人）の宗教である。なお、この宗教を信仰する者をユダヤ人と呼ぶが、国籍や民族性²⁶は問われない。そのため、ドイツ人であれ、ユダヤ教を信仰する者はユダヤ人と呼ばれる²⁷。また、第2次世界大戦中、ヒトラーはユダヤ人を虐殺したが、これは外国人を排斥するものではなく、殺害されたユダヤ人の中には、ドイツ国籍を持つ者もいた。例えば、第1次世界大戦では、ドイツ兵として、祖国ドイツのために戦ったドイツ人も、ユダヤ教を信仰するユダヤ人として迫害を受けた。

現在、パレスチナ地方の大半は、イスラエル（正式名称はイスラエル国）の領土となっているが、北部はシリアの、また、東部はヨルダンの領土の一部となっている。なお、南西部はエジプトと接している。

パレスチナと呼ばれる前、この地域はユダまたはユダヤ（ユーダイア）と呼ばれ²⁸、ユダヤ教という宗教名の由来となった。



上図『日本経済新聞』（2015年1月20日付）より



パレスチナという地名はギリシア語のパライスチナに由来するが、これは「ペリシテ人の土地」という意である。ペリシテ人とは紀元前 12 世紀初頭、この地域に住み着くようになった戦闘的な海洋民族で、ユダヤ人の宿敵となった²⁹。かつてはユダまたはユダヤと呼ばれていた地域を宿敵ペリシテ人の土地、すなわち、パレスチナ（シリア・パレスチナ）と改名したのは、ローマ皇帝ハドリアヌス（在位 117 年～178 年）であるが、その経緯は以下の通りである。

²⁶ ただし、元来、ユダヤ教は中東のパレスチナ地方に住むイスラエル人が信奉していた宗教であり、彼らはヨーロッパの民族ではないため、ヨーロッパの民族とは外観が異なる。なお、ユダヤ法によれば、ユダヤ人とは母親がユダヤ人であるか、ラビ（ユダヤ教における司祭）の指導の下でユダヤ教に改宗した者を指す。

²⁷ 例えば、『アンネの日記』の著者であるアンネ・フランクはユダヤ教を信奉するドイツ人であった。物理学者のアルベルト・アイシュタインもドイツ人であったが、ナチスによる迫害から逃れるため、米国に移住すると、1940年には米国籍を取得している。米国籍を持つ著名な現代ユダヤ人としては、映画監督のステイブン・スピルバーグや facebook 創業者のマーク・ザッカーバーグが挙げられる。

²⁸ 古くはユダと呼ばれていたが、ヘレニズム時代になると、ユダヤと呼ばれるようになった。

²⁹ 紀元前 1000 年頃、ユダヤ人の王となったダビデは、ペリシテの軍人であったが、ユダヤ側に寝返り、ペリシテ人との戦いで活躍することで人気を博した。旧約聖書にはダビデが巨人ゴリアテを打ち負かす話が記されているが、ゴリアテはペリシテ人である。

西暦 6 年、この地域はローマ帝国の属州となったが、ユダヤ人は帝国に服従していたわけではなく、度々、反乱を起こした。中でも、132 年の反乱（第 2 次ユダヤ戦争）に際し、ハドリアヌス帝はユダヤ人の聖都エルサレム（イェルサレム）を破壊するだけでなく、ユダヤ的なものをすべて、この地域から排除した。つまり、地域の名称から「ユダヤ」を抹消し、「ペリシテ人の土地」に改めた。

2. ユダヤ教の成立とエルサレム（イェルサレム）



ユダヤ教を信奉する人々、つまり、ユダヤ人は、紀元前 2000 年頃、この地に定着したが、彼らがユダヤ人と呼ばれるようになったのは、ユダヤ教が成立した紀元前 6 世紀後半以降のことであり、それ以前はイスラエル人ないしイスラエルの民と呼ばれていた。

紀元前 1000 年頃、彼らはパレスチナ地方に王国（イスラエル王国）を建設したが、2 代目のダビデ王³⁰（在位前 1000 年頃～961 年）の時代、エルサレム（イェルサレム）は首都ないし聖都となった。

※ 左の彫刻は、ルネサンス期の 16 世紀初頭、ミケランジェロが制作したダビデ像である。

第 3 代王であるソロモン（在位前 961～922 年）は、首都（聖都）エルサレムにイスラエル人の神ヤハウェを祀る神殿（エルサレム神殿）を完成させたが、彼の死後、王国は南北に分裂し（つまり、北のイスラエル王国と、南のユダ王国に分断された）、エルサレム神殿は南のユダ王国の礼拝の要となった。なお、紀元前 722 年、北のイスラエル王国がアッシリアに滅ぼされると、南のユダ王国がイスラエル王国と目されるようになった。

紀元前 609 年、アッシリアが滅亡すると、新バビロニアが勢力を増し、ユダ王国を攻略した。そして、紀元前 597～538 年、新バビロニアは、ユダの支配階級層や技術職人³¹を首都バビロンに連行し、働かせたが（バビロン捕囚）、礼拝堂に集まり、祈りを捧げる儀式は、この異国の地で生まれた。また、聖典も編纂された。そして、捕囚が終わり、帰国した指導者は、民族の再興を図るために、ユダヤ教を成立させた。

紀元前 64 年、パレスチナ地方はローマ帝国の属州となったが、ユダヤ人は帝国に従順であったわけではなく、度々、反乱を起こした。そして、66 年、ユダヤ戦争が勃発すると、首都（聖地）エルサレムは帝国軍によって完全に破壊された（70 年のエルサレム神殿の破壊）。また、132 年、当時のローマ皇帝ハドリアヌスがエルサレムに別荘の建設を計画すると、再び反乱が起き（第 2 次ユダヤ戦争）、エルサレムはローマ軍によって徹底的に破壊された。その後、ハドリアヌス帝はユダヤ的なものを完全に排除し、アエリア・カピトリナと呼ばれる新しい都市を建設するとともに、ユダヤ人をこの地域から追放した。こうして亡国の民となったユダヤ人は世界各地に離散したが、そこで、度々、差別・迫害を受けることになった（30 頁以下参照）。なお、前述したエルサレム神殿の破壊や地域からの追放は民族的な理由に基づいており、宗教上の理由によるものではない。つまり、当時のローマ帝国では、ギリシア神話や、その影響を受けているローマ神話が広く信奉されていたが、異教にも寛容であった。

ローマ（後の東ローマ帝国）による統治は、この地域が 638 年にイスラム（アラブ人）に征服されるまで続いた。その間、ユダヤ教を母胎としてキリスト教が成立したが、イエス・キリストはエルサレム郊外で処刑され、後に復活したとされている。また、610 年頃、預言者ムハンマドがイスラム教を説き始めたが、エルサレムにはムハンマドに縁のある礼拝堂が建築され³²、メッカ、メディナに次ぐイスラム教の第 3 の聖地となった。なお、イスラム教は現在でも、イスラエル、ギリシア、キプロスを除く西アジア（中東）・北アフリカ諸国で広く信奉されているが、アラビア語を公用語とする、これらの国をアラブ諸国と呼ぶ。

³⁰ 前掲注 29 参照。

³¹ 旧約聖書（ユダヤ教の聖書）の一部をなす『エレミヤ書』には、約 4,600 人がバビロニアに連行されたと記されているが、これは男子のみであり、全体では 15,000 人と推測されている。なお、これは当時のユダ王国の民の約 6%に過ぎないが、支配階級層や技術者が連行されたため、王国は衰退した。

³² その一つが「岩のドーム」であるが、天使ガブリエルに導かれ、天馬に乗ってエルサレムの神殿へ行ったムハンマドは、ドーム内に祀られている聖なる岩より天に昇ったとされている。

上述した事情に基づき、エルサレムはユダヤ教、キリスト教、イスラム教のそれぞれに縁のある聖地とされている。

問題] 下の絵画と説明を参考にして、ユダヤ教、キリスト教とイスラム教の共通点を指摘しなさい。



レオナルド・ダ・ヴィンチ作「受胎告知」

紀元前4～6年、イエスを身ごもっていることを告知する

大天使ガブリエル（左）

なお、ガブリエルはユダヤ教の四大天使に属す。



作者不明

600年頃、ムハンマドに啓示を与える天使ガブリエル（左）

3. 聖地を巡る争い

1516年～1917年、パレスチナはオスマン帝国（現在のトルコ共和国の前身）の領土となったが、同帝国は三宗教の聖地を保護した。また、パレスチナの住民の大部分はイスラム教徒であったが、ユダヤ教やキリスト教の信仰も許されていた。

19世紀になると、世界各地に離散し、そこで迫害を受けていたユダヤ人がパレスチナにユダヤ国家を建設する運動（シオニズム）が高まったが、オスマン帝国はそれを認めなかった。しかし、同帝国が第1次世界大戦で敗れ、後に崩壊すると、シオニズムは勢いを増した。

前述したように、オスマン帝国は第1次世界大戦で敗れたことをきっかけとして崩壊したが、戦後、パレスチナはイギリスの統治下に置かれることになった。なお、これを認めた国際連盟決議（1922年9月）の前文には、パレスチナにユダヤ人の民族的郷土を設けるとする一文が盛り込まれたが、その解釈には争いがあった。つまり、民族的郷土の設置とは国家の建設を指す捉える立場と、ユダヤ文化の中心地を設けることで足りるという立場があった。

このイギリスによる統治は、第2次世界大戦後に発足した国際連合によって廃止されることになった。詳細には、1947年11月、国連総会はイギリスの委任統治を廃止し、パレスチナを①アラブ国家（イスラム国家）、②ユダヤ国家および③国連が管理する国際都市エルサレムに3分割する決議を採択した（パレスチナ分割決議）。ユダヤ人はこの決議を受け入れ、1948年5月14日、イスラエルの建国を宣言した。これによって、エルサレム破壊後、世界各地に離散したユダヤ人は、約1800年間も持ち続けてきた悲願を達成することができたが、アラブ諸国が国連決議に反発したため、パレスチナ戦争（1948年5月～1949年3月の**第一次中東戦争**）が勃発した。

この戦争で勝利を収めたイスラエルは、国連決議では割り当てられていなかったエルサレムをも支配するようになった。詳細には、エルサレムを東西に分け、その西部（西エルサレム）を統治下に置いた。なお、東部（東エルサレム）は隣国ヨルダンの統治下に置かれたが、1967年6月の**六日戦争**（**第三次中東戦争**）でもイスラエルは勝ち、東エルサレムを含むパレスチナ全土を占領するに至った。これを受け、イスラエルは東西エルサレムを統合し、自国の首都としたが、国際連合をはじめとする国際社会の承認は得られておらず、イスラエルと国交のある国はテルアビブに大使館を設置してきた³³。

³³ なお、1967年11月、国連安全保障理事会は、イスラエルに占領地から撤退を求め、また、ユダヤ国家とアラブ国家の平和的共存の基板となる決議を採択しているが、イスラエルは従っていない。

米国も同様にテルアビブに大使館を設けてきたが、1995年には、エルサレムへの移転を認める国内法が制定された。しかし、同法は長年に亘り、執行されなかった。このような実務を変えたのは、トランプ大統領であった。詳しくは、2017年12月、トランプは大使館の移転を発表した。そして、イスラエルの建国70周年記念日にあたる2018年5月14日、それを実行に移した³⁴。

当時のEU加盟28ヶ国（2020年1月末にイギリスが脱退したことを受け、現在は27ヶ国）は直ちに外相会議を開き、2国家併存に逆行する米国の措置について協議したが、ハンガリー、チェコとルーマニアが反対したため、米国を非難する決議案は採択されなかった。ルーマニアが反対したのは、米国との軍事的つながりが深いためと考えられている。仮にすべて加盟国が賛成し、米国を非難する決議が採択されていたとしても、米国に政策変更を促す効果はなかったと解される。

なお、EUの行政機関である欧州委員会は、エルサレムを2国家の首都とすることを含む、2国家併存による紛争の平和的解決を今後も支援していく点で全加盟国の見解は一致していると述べ、全加盟国の一体性を強調している。

ユダヤ人迫害・反ユダヤ

前述したように、ユダヤ教は中東のバシレチナ地方で成立した宗教であり、この地域に住む人々によって古くから信奉されている。西暦6年、この地域はローマ帝国の属州となったが、ユダヤ教徒には信仰の自由が保障されており、宗教的な理由から迫害を受けることはなかった。

しかし、ユダヤ人は帝国に対して度々、反乱を起こした。そのため、70年、エルサレムは帝国軍によって完全に破壊された（第1次ユダヤ戦争）。また、132年、エルサレムは再び破壊され（第2次ユダヤ戦争）、ユダヤ人は追放されることになった。なお、これらは宗教的な理由ではなく、民族・政治的対立を背景にしている点に注意を要する。

イスラエルから追放されたユダヤ人は世界各地に離散したが、ローマ帝国内では一定の自治権が与えられ、宗教上の自由も保障された。なお、暴君として知られる皇帝ネロ（在位54～68年）はキリスト教徒を弾圧したが、ユダヤ教徒は迫害の対象に含まれなかった。

ローマ皇帝の中で、最初にキリスト教徒に改宗したのはコンスタンティヌス帝（在位324～337年）であるが、313年、彼は「ミラノ勅令」を出し、キリスト教を公認した。これによって、キリスト教とユダヤ教の違いが鮮明になるとともに、後者は異教として扱われるようになった。そして、イエス・キリストが十字架刑に処されたのはユダヤ人に責任があるという考えの下、反ユダヤ主義がキリスト教徒の中で台頭していった。

この傾向は、392年にキリスト教がローマ帝国唯一の国教に指定されると、さらに強まった。特に、東ローマ帝国の皇帝テオドシウス2世（在位408～450年）が編纂した「テオドシウス法典」には反ユダヤ主義が色濃く表れ、中世ヨーロッパにおける反ユダヤの基盤となった。

ヨーロッパ西部に移り住んだユダヤ人は商人として活躍し、各地でユダヤ人社会が形成されていった。特に、カール大帝（在位768～814年）は、フランク王国の経済的發展を支える存在として、ユダヤ人を保護した。西ヨーロッパでユダヤ人への迫害が始まったのは、11世紀末頃に十字軍遠征が行われるようになってからである。

³⁴ なお、国際社会はこのような米国の措置に批判的で、米国大使館のエルサレム移転歓迎式典に参加したヨーロッパ諸国は、オーストリア、ジョージア、チェコ、ハンガリー、ボスニア・ヘルツェゴビナ、マケドニア、ルーマニアのみであった。

十字軍遠征とは、イエス・キリストの墓（聖墳墓）が存在するエルサレムをイスラム勢力から奪還・防衛することを名目とし、西方のキリスト教徒が行った東方遠征を指す。11世紀末から13世紀末にかけ、8回（7回とする説もある）、実施されているが³⁵、その際、キリスト教徒は十字架の印を付けて戦ったことが「十字軍」という名称の由来である。



第1回十字軍によるアンティオキア³⁶攻囲戦

この「聖なる戦争」の時代、ヨーロッパでは、異教徒との戦いはヨーロッパでも必要であること、また、イエス・キリストの敵討ちが必要であることが指摘されるようになった。そして、第1次十字軍遠征が行われた1096年、ライン川沿いの地域で、ユダヤ人に対する攻撃・迫害が始まった。また、エルサレムに侵入した十字軍は、この地にいたユダヤ人を殺害した。さらに、遠征からの帰路、十字軍はユダヤ人に危害を加えていった。

それ以降、ユダヤ人は異教徒として、また、イエス・キリストを死に追いやった罪人として、迫害を受けることになった。1517年に宗教改革を行ったマルティン・ルターも反ユダヤ主義者であり、宗教改革によってユダヤ人迫害がなくなることはなかった。また、第2次世界大戦が終結するまでは、文化人ないし知識人の中からも、ユダヤ人を差別する言葉が発せられた。

ところで、ユダヤ人への迫害には、差別、ゲットーと呼ばれるユダヤ人居住区への強制移住、一般社会からの隔離、追放、殺害・暴行、襲撃・放火、財産没収など、様々な形態が存在した。

³⁵ 広義には、東ローマ帝国がオスマン帝国に滅ぼされる15世紀中頃まで続いた。

聖地エルサレムは、すでに637年より、イスラム勢力に占領されていたが、第1次遠征（1096～1099年）は、彼らの侵入に苦慮していた皇帝がローマ教皇ウルバヌス2世に支援を要請したことを機に実施された。教皇が遠征軍の結成を提唱すると、主として、フランスの諸侯・騎士で構成される40万の軍団が結成され、東征した。1099年、軍は聖墳墓の奪還に成功し、エルサレム王国を建設したが、イスラム勢力が勢いを取り戻すと、第2次遠征（1147～1149年）が行われた。しかし、これは成功しないばかりか、第3次遠征（1189～1192年）では本来の目的から逸脱し、十字軍は東ローマ帝国の首都コンスタンティノープルを占領し、ラテン王国を建てた。他方、本来の目的である聖地奪還は第1次遠征を除き、成功しなかった。

³⁶ アンティオキア（17頁の地図参照）は、シリアの領土内にあった都市で、古代には、キリスト教の5本山の一つが置かれていた。なお、1939年、トルコに編入され、現在はアンタキヤと呼ばれている。

また、それらは前述した宗教的な理由だけではなく、以下の様々な理由に基づいていた。

- ① 聖書の「何も当てにしないで貸してやれ」という教えに従い、キリスト教は利息付きの貸し借りを禁止していたが、ユダヤ教は禁止していなかった。そのため、ユダヤ人の中には金融業で成功し、裕福になる者が出たが、これがキリスト教徒の妬みや恨みを買った。
 なお、カトリックの大聖堂や教会の建築に際し、裕福なユダヤ人は貴重な資金提供者となったが（そのため、例えば、フランス・ストラスブールの大聖堂には、カトリックの礼拝施設であるにも拘わらず、ユダヤ人を象徴する像も設置されている）、建築が完成すると、迫害を受けた。
- ② 内乱、大火、社会不安、疫病の発生などは、ユダヤ人が引き起こしたものであると考えられた。また、ユダヤ人は人々の不満のはけ口となり、スケープ・ゴート（scapegoat 生贄の山羊）となった。
- ③ 歴史上、もっとも大規模かつ組織的にユダヤ人を迫害したのは、独裁者アドルフ・ヒトラーであった。彼が党首を務めたナチス（Nazis 国家社会主義ドイツ労働者党）によるユダヤ人迫害をホロコーストと呼ぶが、ホロコースト（holocaust）はユダヤ教の供犠（くぎ 神に生贄（いけにえ）を捧げること）を指す。

オーストリア出身のヒトラーは、ドイツで政治家としての人気を得るため、ユダヤ人を批判するようになった。つまり、反ユダヤ主義は民衆受けが良く、多くの支持者や資金の獲得を可能にした。彼は、特に、第1次世界大戦後、ドイツが高額の賠償金問題で苦しんでいるのは³⁷ユダヤ人の陰謀であると主張し、大衆の支持を得た。また、白人であるドイツ民族の優位性を提唱し、ドイツ民族の血（血統）を守るために、国内にいるユダヤ人を迫害した（27頁の注26参照）。さらに、当時、ソ連で勢力を増しつつあった共産主義者とユダヤ人を同一視し、両者を敵対視することで、反ユダヤ主義を展開した。

第2次世界大戦中の1940年以降、ドイツ各地には多くのユダヤ人収容所が設けられた。その内、最も大規模であったのは、アウシュビッツ（当時、ドイツはこの地域を占領していたが、現在はポーランド南西部の古都クラクフ近郊）に設置された施設であるが、1941年10月に開設された第2収容所には、約130万人のユダヤ人が強制的に送られ、殺害された。なお、その他の地域の収容所を合わせると、約600万人のユダヤ人がホロコーストの犠牲になったと考えられている。

- ④ 第2次世界大戦後の1948年5月、ユダヤ人はパレスチナ地方にイスラエルを建国したが、これは、この地域に住むアラブ人ないしイスラム教徒との対立を生んだ。今日の反ユダヤの背景には、この政治的な対立も存在する。特に、イスラエルはアラブ人が住むガザ地区への軍事攻撃を繰り返しており（和平協定は度々、締結されているが、後に破棄され、イスラエルは攻撃を再開している）、アラブ人だけではなく、ヨーロッパ人からも強く批判されている。

ところで、ユダヤ人はユダヤ教を信仰する者を指し、国籍を問わない。そのため、反ユダヤ主義と反外国人（外国人排斥運動）と同一ではなく、外国人排斥を党是とする極右政党の中にもユダヤ人は存在する。例えば、ドイツの極右政党（AfD）にはユダヤ人も所属しており、同党は反ユダヤ主義を掲げているわけではない。

³⁷ ドイツの賠償問題について春学期のテキスト50頁を参照されたい。